

最新歯科技工技術講習会Ⅱ

都技生涯研修

日技生涯研修単位 申請中

〔重要なお知らせ〕

本研修会は東京都保健医療局からの委託事業となっております。

つきましては受講対象者は以下の方に限ります。

- 東京都歯科技工士会会員
- 学生
- 東京都内在住または在勤の歯科技工士

〔申込開始日〕

- 東京都歯科技工士会会員 : 9月25日(金) AM10時～
- 学生・東京都内在住または在勤の歯科技工士 : 9月28日(月) AM10時～

* 受付開始日前のお申し込みは無効といたします。

〔申込方法〕

- ① 参加希望者は申込用二次元コード、もしくは東京都歯科技工士会のホームページからお申し込みください。

ホームページURL: <https://www.to-ginet.com>

- ② 上記オンライン申込をされますと登録したメールアドレスに自動返信されますのでご確認ください。

* 定員になり次第締切といたします。

〔LINE公式アカウント登録のお願い〕

緊急連絡、変更&追加報告をスムーズにさせるために都技ではLINE公式アカウントを設けています。LINEを使用されている方は、是非とも登録をお願いいたします。



申込用



都技LINE公式
アカウント二次元コード

〔お問い合わせ〕

一般社団法人 東京都歯科技工士会

〒170-0004 東京都豊島区北大塚2-2-10 ヴィップ大塚香川ビル4F

e-mail: togi-info@to-ginet.com

2026年度

最新歯科技工技術講習会Ⅱ

ハイブリッドセミナー

デジタル技術が拓く、これからの 歯科技工所のかたち

一人と技術が共に成長する組織づくりー

滝沢 琢也 先生 (株)コアダENTALラボ横浜

「作る」から「見せる」へ

ーDICOM・STLデータを活用したデジタルデザインー

田中 文博 先生 (株)コアダENTALラボ横浜

デジタルデータを活用した サージカルガイド製作

ー診断・シミュレーションからスタックアップガイドまでー

井出 幹哉 先生 (株)コアダENTALラボ横浜

デジタルデンチャーの現在地

ー3Dプリント義歯の臨床応用と可能性ー

吉岡 雅史 先生 (株)コアダENTALラボ横浜



Tokyo master course Science Lecture

〔開催日時〕

2026年 10月25日 日 入室 12:40 開始 13:00 終了 17:00

オンライン

定員 80名

参加費 無料

会場受講

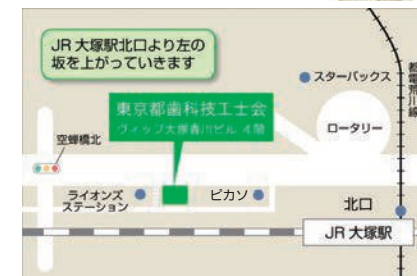
定員 30名

参加費 無料

場所 東京都歯科技工士会 研修室

東京都豊島区北大塚2-2-10 ヴィップ大塚香川ビル4F

一般社団法人 東京都歯科技工士会



デジタル技術が拓く、これからの歯科技工所のかたち —人と技術が共に成長する組織づくり—

近年、歯科技工業界は、人材不足や働き方の変化、デジタル技術の進展など、大きな転換期を迎えています。こうした環境の中で、従来の技術や経験を大切にしながらも、新しい技術を柔軟に取り入れ、限られた人材がそれぞれの力を発揮できる環境を整えていくことが、今後ますます重要になると考えています。

当社では、CAD/CAMや3Dプリントをはじめとするデジタル技術の活用に加え、業務の進捗やマニュアル、顧客ごとの要件仕様などの情報をデジタル化し、社内で共有・活用できる環境づくりを進めています。また、自社開発のグループウェア「Work Scope」を活用し、生産業務に関する情報を一元管理することで、生産業務の見える化や標準化、円滑な情報共有にも取り組んでいます。さらに、生産現場における機械化や自動化を進め、これまで人の手に委ねられてきた工程の効率化にも取り組んでいます。

こうした取り組みは、単に作業を機械やシステムに置き換えることを目的としたものではない。デジタル化や機械化、また自動化によって生まれた時間を、人材育成やコミュニケーション、さらにはより付加価値の高い業務に充てることで、一人ひとりの成長と仕事の質の向上につなげることを目指しています。そして、一人ひとりの成長をチーム全体の力へつなげることで、組織として継続的に成長できる体制を構築していきたいと考えています。

本講演では、当社がこれまで取り組んできたデジタル技術の活用や業務の標準化、情報共有、自動化への取り組みを紹介しながら、これからの歯科技工所における「人」と「デジタル技術」の関わり方について考えていきます。同じような課題に向き合う歯科技工所の皆様にとって、今後の取り組みを考える際の一つの参考となれば幸いです。

「作る」から「見せる」へ ～DICOM・STL データを活用したデジタルデザイン～

近年の歯科医療では、デジタル技術が中心的な役割を担い、従来のワークフローが大きく変化しています。デジタルデンティストリーの普及により、補綴装置の精度や品質の均一化、技工工程および治療ステップの簡便化・可視化が進み、治療計画から補綴装置の製作まで、デジタルデータを活用した一貫性のあるワークフローが構築されつつあります。

それに伴い、歯科用CAD/CAMシステムも進化し、歯科技工士が扱うデータの範囲も拡大しています。従来、技工所で扱う機会の少なかったDICOMデータなどの診断情報をSTLデータと組み合わせることで、顎骨、歯列、補綴装置の位置関係を三次元的に把握し、臨床的背景を考慮した補綴設計や、診査・診断を支援する情報の提供が可能となっています。

一方で、デジタルシステムは、単に操作方法を習得するだけでは、その性能を十分に引き出すことはできません。データの特性を理解し、目的に応じたデータ処理やデザインを行うためのデジタルスキルが重要です。これらを活用することで、ラボサイドから歯科医師へ提供できる情報量が増加し、従来は視認が難しかった顎骨や歯列、補綴装置の位置関係を三次元的に可視化することで、治療計画や補綴設計をより具体的に検討できるようになります。本講演では、ラボサイドで利用されるCADソフトウェアに焦点を当て、DICOM・STLデータの取り扱いから、それらを統合した三次元情報の可視化、診査・診断を支援するデジタルデザインまで、実際の操作を通じて解説します。補綴装置を「作る」ためのデジタル技術だけでなく、デジタルデータから必要な情報を「見せる」ためのデザイン手法について、インプラント治療や補綴治療などの具体的な症例を交えながら紹介します。

歯科技工士がデジタルデータを活用し、製作工程だけでなく診療を支援する情報を提供することで、歯科医師との情報共有や治療計画の精度向上につながる可能性について考察します。

■講師略歴

滝沢 琢也 [たきざわ たくや]

(株)コアデンタルラボ横浜

略歴

1990年 神奈川歯科大学付属歯科技工専門学校 卒業
1990年 株式会社コアデンタルラボ横浜 入社
2022年 株式会社コアデンタルラボ横浜 取締役就任
2023年 株式会社コアデンタルラボ横浜 専務取締役就任

所属

日本歯科技工士会所属
日本臨床歯科学会
一般社団法人 日本デジタル歯科学会
一般社団法人 日本歯科技工学会
特定非営利活動法人 日本睡眠歯科学会



■講師略歴

田中 文博 [たなか ふみひろ]

(株)コアデンタルラボ横浜

略歴

1994年 横浜歯科技術専門学校 卒業
1994年 株式会社コアデンタルラボ横浜 入社
現在に至る

所属

日本臨床歯科学会
一般社団法人 日本デジタル歯科学会



デジタルデータを活用したサージカルガイド製作 —診断・シミュレーションからスタックブルガイドまで—

インプラント治療において、近年ではCTデータやSTLデータなどのデジタルデータを活用し、診査・診断やシミュレーションを行ったうえでサージカルガイドを製作し、実際の手術に使用する機会が増えています。現在では、多数歯に及びインプラント埋入症例に限らず、少数歯の埋入においても、多くの歯科医師がサージカルガイドを使用するようになっていました。

こうした治療のデジタル化に伴い、歯科技工士がインプラント治療用ソフトウェアを介して、診断や治療計画に積極的に関わる機会も増えています。サージカルガイドの製作に使用する診断・シミュレーション用ソフトウェアについても、各メーカー製のものははじめ、サードパーティー製を含めて数多くの製品が提供されており、これらのソフトウェアを活用することで、治療計画に基づいたサージカルガイドの設計から、3Dプリンターによる出力、さらに金属スリーブを組み込んだガイドの製作まで、一連の工程をデジタルワークフローの中で行うことが可能となっています。

弊社においてもサージカルガイドの需要は年々増加しており、現在では、より高度な治療計画に対応するため、スタックブルガイドの製作にも積極的に取り組んでいます。

スタックブルガイドを用いた症例では、アンカーピンによる基準位置の確保から、インプラントの正確な埋入、さらには即時プロビジョナルレストレーションの装着までを、より円滑に進めることが可能です。このような補綴主導型の治療計画に基づくシミュレーションへのニーズは、今後さらに高まっていくものと考えられます。

本講演では、CTデータやSTLデータなどを活用した診査・診断およびシミュレーションから、サージカルガイドの設計・製作に至るまでの一連の流れと、その際に注意すべきポイントについて紹介します。

デジタルデンチャーの現在地 —3D プリント義歯の臨床応用と可能性—

歯科補綴装置は、CAD/CAMシステムや3Dプリンティング技術の進歩に伴い、大きな変革の時代を迎えています。これまでデジタル化はクラウン・ブリッジ補綴を中心に発展してきましたが、近年ではフルデンチャーの保険収載や関連機器・材料の進歩を背景に、有床義歯分野においてもデジタルワークフローの臨床応用が急速に広がっています。

チェアサイドでは、口腔内スキャナー（IOS）の普及により、口腔内だけではなく、旧義歯の360度スキャンから義歯製作がスタートする事も珍しくなく、CTやフェイススキャナーなどのデータを組み合わせることで、口腔内情報だけでなく顔貌や顎位を含めた多角的な情報を歯科技工士が共有できる環境が整い、より精度の高い補綴装置の設計・製作が可能となりました。

また、デジタルデータを保存できることで、再製作や経時的な比較・検証においても大きな利点となっています。

義歯製作工程では、コピーデンチャー、CT、フェイススキャンデータを活用したデジタル排列により、咬合平面や人工歯排列の再現性、審美性の改善も期待できます。また、義歯床部の加工方法においては、3Dプリンターによる積層造形技術が急速に普及しており、造形精度や材料性能も年々向上しています。このように義歯製作における選択肢はさらに広がっており、最新の情報を継続的に収集・評価しながら適切な方法を選択することが重要であると考えます。

一方で、すべてをデジタル化すればよいわけではなく、症例によってはアナログ技工の知識や経験が重要となる場面も少なくありません。本講演では、デジタル技術の利点とアナログ技法が有効な領域を整理するとともに、最新技術により実現した高強度・フルカラー・一体造形3Dプリントデンチャーの特徴と臨床応用について、実際の症例を交えながらデジタルデンチャーの現状と今後の可能性について考察します。

■講師略歴

井出 幹哉 [いで みきや]

(株)コアデンタルラボ横浜

略歴

1997年 静岡歯科技工学院 卒業
1997年 (株)コアデンタルラボ横浜 入社

所属

日本歯科技工士会所属



■講師略歴

吉岡 雅史 [よしおか まさし]

(株)コアデンタルラボ横浜

略歴

2001年 島根歯科技術専門学校 卒業
2001年 株式会社コアデンタルラボ横浜 入社

所属

日本歯科技工士会所属

